

潜在する地域力に光

母親は、横須賀商工会議所が昨年11月に一般社団法人「sukasuka-ippo(すかすか・いっぽ)」と始めた事業「よこすかテレワーク」の登録ワーカー。この事業は、スキ

未来を創る

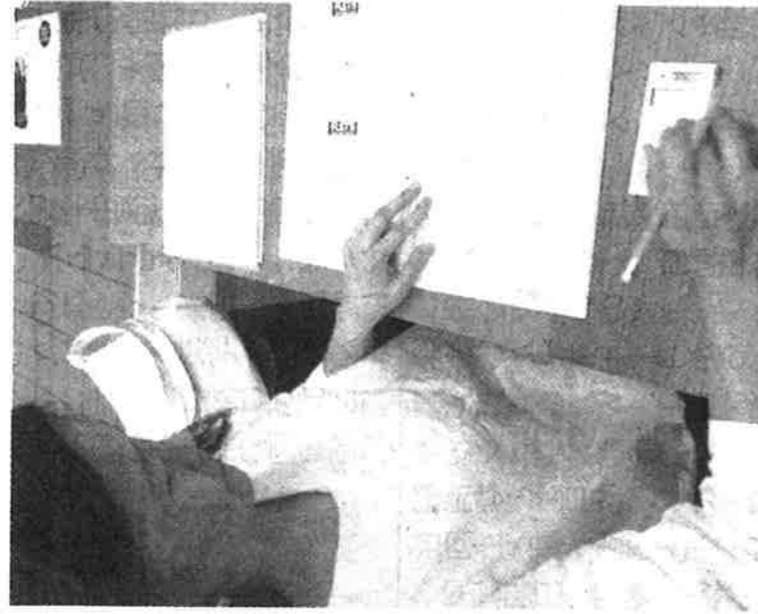
横須賀商工会議所90周年

◇2◇

領収書を日誌に貼り、費目ごとの金額を書き込む。ダウン症の19歳の息子と暮らす母親(43)は、自営業者が税理士事務所に提出する前の資料を整えることが仕事だ。自宅で空いた時間を見つけ、作業している。

母親は、横須賀商工会議所が昨年11月に一般社団法人「sukasuka-ippo(すかすか・いっぽ)」と始めた事業「よこすかテレワーク」の登録ワーカー。この事業は、スキ

ルやキャリアがありながら子育てに追われ、働き出るのが難しかった親らが登録し、人手不足で悩む中小企業のアウトソーシングを請け負う。双方を仕事でつなぐ仕組みを整えた形だ。ワーカーは現在、16人。受託業務はホームページのデザイン、チラシ制作、データ入力、イベントの企画などさまざまで、sukasuka-ippoがワーカーの特性で振り分ける。民間での勤務経験もある母親は「息子に何かあればすぐに戻れるようにしておきたい。家ででき、小遣い程度の手当ても頂けて良いですね」とほほ笑む。



領収書を日誌に整理する作業を行う登録ワーカーの母親 横須賀市内

市民から募ったアイデア

誰かの役に立っているという実感を得ることは大事なことです」と話す。将来的には介護職者などにも対象を広げていく計画だ。五本木代表は「社会とつながりたい人は多い。私たちの子どものごとも考えれば、障害者の働き方の一つにもなっていけばいいと思う」と期待を込めた。地域で眠る力をいかに活用するか。横須賀経済にとって重要な命題だ。商議所の菊池匡文専務理事(59)

は「これからは地域の経営資源を発掘し、経済循環をつくるのがわれわれに求められている。出入りが少なく新陳代謝が緩やかな半島経済だからこそ、域内のつながりが強く、事業化につなげやすい面もある」とみる。

「経済活性化、人口減対策には2つの方策がある。一つは大企業の誘致、もう一つは市民による商品開発や小さな起業。他方ではない地域発の後者こそがより重要だと思う。小さな事業化、起業化をしっかりと支えることで、結果として家計が潤い、経済活性化、人口減対策にもつながれば」

小さな「芽」を地域にいかに増やせるか。再生への挑戦は始まったばかりだ。(高本 雅通)

町内にあり、今回が4カ所目。標高約850mの地点の国道1号沿いに開設され、この冬から運用をスタートする。県県西土木事務所小田原土木センターによると、町内には標高800m以上の地点を通る道路が複数あり、12月から3月ごろにか

けて車の立ち往生などが頻繁に発生。県は路面凍結や積雪に対してより迅速かつ

効率的に対応する必要性が高まっているとして、四つ目の基地設置へ総事業費1

億5千万円を投じ2017年度に着工した。基地は今年10月に完成。

三浦ニカン甘し誘惑

のかな。ニカンに含まれるトクミ

季節は始まったばかりだが、甘み十分。皮が柔ら

高台で水はけが良い点。栄養を蓄えた粘土質の土と海

売り切れてしまう。カボチやナス、キャベツなど種類も多い。これからは大根やニンジンがお薦めかな。春には、イチゴ狩りがある。珍しい「白イチゴ」に

3時。「ミカン狩り」は今月30日まで。(タイトル・画ニヒツウ鏡文ニ三浦半島観光再興プロジェクト 石井亨) 毎月第2・第4水曜日掲載

「地元民の安心、観光客や物流の足の確保に果たす基地の役割は大きく、町としても大いに期待したい」と感謝した。

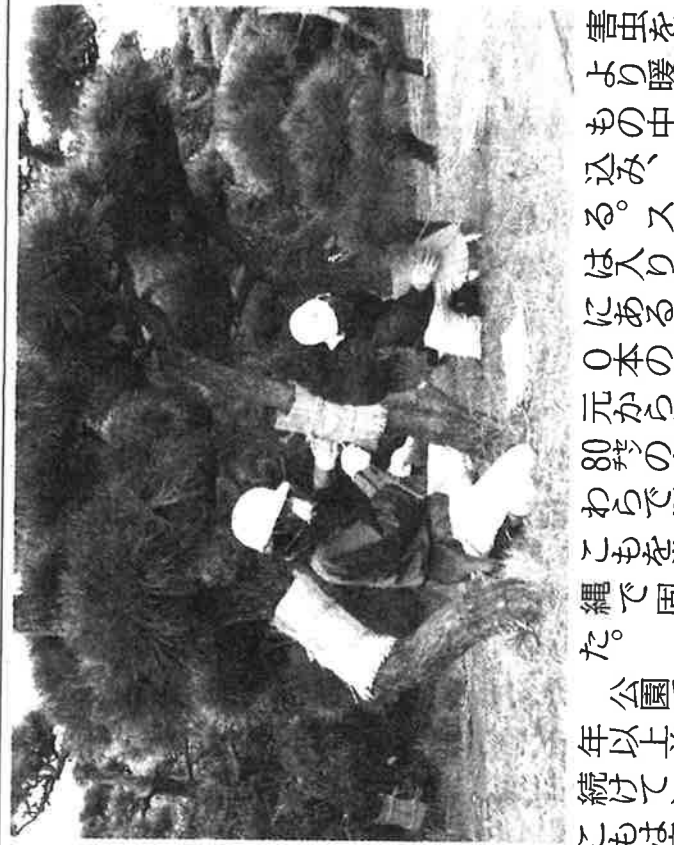
300本にも巻き クロマツ冬支度

本格的な冬の到来を前に、県立城ヶ島公園(三浦市三崎町城ヶ島)のスタッフが12日、園内のクロマツを害虫から守るため、こもを巻い



五穀豊穡や大漁願い、海南神社 面神楽

三浦市の重要無形民俗文化財に指定されている伝統芸能「海南神社面神楽」が12、13の両日夜、同神社(同市三崎)の神楽殿で奉納された。同神社の面神



た「写真」。こも巻きは、冬を越すために枝や葉から下りてくる月の啓蟄のころに外にいる害虫とともに